

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101145		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム くすのき 1F		
所在地	静岡県沼津市千本常盤町5-1		
自己評価作成日	平成25年9月5日	評価結果市町村受理日	平成25年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2012_022_kani=true&JigyvosvCd=2271101145-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成25年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気の中でご利用者が自分らしく、安心して過ごせる様な支援を心掛けている。生活リハビリを念頭に置き、出来る事、出来ない事を見極め、声掛けや見守り、介助をしている。気持ちのよい挨拶・明るい笑顔を本年度の目標とし、職員、ご利用者、ご家族等くすのきに関わるみんなが笑顔に包まれるよう心掛けている。散歩や買い物、ドライブ等の日常的な外出に加え、外食や、外部のイベントへの参加、ホーム内の季節行事と、ご利用者に楽しんで頂ける様計画し実施している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は理念に添い、入居者がのんびり、自分のペースで生活できるよう日々の生活で支援しているため、入居者の表情は明るく活き活きしている。また、職員の年齢層に幅があるためケアに奥行きが感じられる。会社の方針で研修が盛んに行われたり、資格を取得することに前向きなため、職員は向上心があり質の高いケアを提供している。地域行事に参加し、地域にグループホームを知ってもらおう様努めている。事業所の場所が海から近いため防災対策が求められるが、地域の方々とは恵を出し合い良い方法を探っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは家庭の雰囲気の中で笑顔を決やさず、共に笑い、皆で幸せを共有できる空間を創っていきます。」という、理念の下生活しています。フロアに掲示をし、常に意識するよう努めています。	理念を、1階は洗面台の所に、2階は正面の入居者と職員が目につく所に掲げ、確認して行動している。今年はじめ、理念に基づき年間目標を決め、達成できたか話し合う計画をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物時お互い顔なじみになり、あいさつしている。清掃や防災訓練など町内の活動に参加している。	自治会の総会に出席し、グループホームの理解を得るため説明をし、訪問者の募集を行った。地域の祭りや防災訓練、千本プラザの催しには入居者と参加している。散歩の時も挨拶を心がけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の総会でグループホームとは・認知症とは・について説明させていただいた。認知症サポーターとなり、包括支援センターの方と協力し活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回ご利用者、ご家族を交え近況報告を行っている。場所がら、特に地震、津波などの防災に対しては沢山の意見、情報を頂いている。	地域包括センターと民生委員の要望で、開催日の年度計画をたて、都合をつけてもらっている。家族の参加はあるが固定している。会議録は職員に回覧し、ファイルにして家族にも見てもらえるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂きホームの様子を見てもらい意見を頂いている。各種申請や、提出書類は必ず持参し、協力関係を築くよう努めている。	行政、地域包括支援センター、社会福祉協議会とも協力的で法改正や制度変更時等連絡があり、相談にものってくれる。地域のグループホーム協会の会合があり、地区行事や車椅子でも便利な食べ物屋さんの情報など意見交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修、ホーム内研修でも取り上げ、全職員が身体拘束ゼロ宣言をしている事を周知し、身体拘束しなくて済む介護方法を話し合っている。	車椅子からの立ち上がりの安全性などを月1回の職員研修で話し合っている。社内研修の内容を職員に周知し、行動している。入居者に寄り添う見守りを心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修などで学ぶ機会を持っている。アザなどを発見した時点で事故とみなし、事故報告書を作成し原因、対策を話し合い見過ごされる事の無いよう注意している。		

静岡県(グループホームくすのき 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で取り上げている。 ご家族より成年後見について相談を受け概要を伝えた。その後、弁護士を通し手続きされた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書、契約書を元に説明を行い、不安な事や疑問点等を尋ね理解、納得いただいている。また、入居後も質問に対し随時説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時や、ケアプラン説明時に伺っている。また、毎月の近況報告にて意見、相談がある時は声掛けて頂くようお願いしている。玄関に意見箱を設置し、直接本社に意見が届くシステムも取っている。	家族とは来訪時や毎月の報告の時に意見や思いを聞くように心がけている。震災後、防災に関する意見が聞かれるので対応を委員会や職員と話し合っている。また、居室のフローリングから畳への変更は家族と話し合っただけの事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気になる事があると、その都度意見を聞き、月1回のユニット会議や、全体会議でも話し合っている。また、年2回の個人面談を行ない意見、提案を聞く機会を設けている。	全体会議で出た、「南側の庭を広くして、入居者が洗濯干しや避難の時にしやすいようにする件」は少しずつ進展している。全体会議では意見が出やすいように日頃から職員の意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作成する際は、事前に休みの希望を聞き希望休が取れるよう調整している。 職員同士で協力し、時間内に仕事が終わるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者面接が年1・2回行なわれている。 社内研修を管理者が講師となり、年次計画で行なわれている。 社内の交流研修も行なっている。 資格取得のための助成金制度がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沼津市のグループホーム連絡協議会に参加しネットワークを形成し、情報交換し、議題について話し合いも行なっている。その他、ケアマネ会議等市や、包括支援センター、関係機関の主催する会合には積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームを事前に見学して頂き、困っている事不安な事や要望をお聞きしている。また、入居後も要望に耳を傾けコミュニケーションを取りながら信頼関係を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接の段階より意見、要望に耳を傾け関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接の段階より意見を聞き、必要としている支援を見極め、出来るだけ意に添うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でご自分で出来る事はして頂き、出来ない部分に対し、声掛け、誘導し一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子については、ご家族の来訪時や、毎月のお便りにてお伝えしている。ケアプランの更新時には、意向を伺い情報を共有し関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方の面会が気兼ねなく出来る様配慮している。	面会の時間は自由でゆったり話ができるよう配慮している。家族の協力で、近所の人や習い事で一緒だった人を連れてきてくれる。馴染みの美容院に出かける入居者もいる。墓参りや法事に出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼食前に声掛けにてレクレーションを行い、係わり合いを持てるように橋渡しをしている。また、利用者同士の関係により席の配置に配慮している。		

静岡県(グループホームくすのき 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や、支援に努めている。 転居先に必要な情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係の下、話しやすい雰囲気を作りその話の中から希望、意向を汲み取り職員間で共有している。また、意思表示の困難な方はカンファレンスで話し合い家族の希望、意向を伺っている。	コミュニケーションの基本は聴くことと心得、入居者の声を拾うように心がけている。入居者の発した希望は小さなことでもできるだけ叶えるよう心がけている。意思表示の困難な方の行動については、職員全員で原因は何かを話し合っ対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や環境等をご本人やご家族に伺い、収集した情報は職員間で共有している。馴染みのある家具や、食器など身の回りの物を継続して使用して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに添い一人ひとりの身体状態に応じたケアをしている。状態の変化が見られた時は、個別記録に記入し申し送り等で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを開き、訪問看護師を交え、全職員の意見を集め、現状に即した介護計画になる様努めている。 ケアプランのモニタリングは、3ヶ月ごとに行っている。	会社独自の様式を用いてアセスメントを行っているが、変更箇所は赤色にする等より解りやすくする工夫を行い、月1回のユニット会議で全職員の意見を反映させている。看護師の意見も参考にして作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の状態や行動、日々の変化について出来るだけ正確に個別記録に記入している。職員は、仕事に入る前に記録に眼を通し、申し送りを聞き情報を共有している。これらの個別記録や、日常の様子を元に介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月のカンファレンスで今必要な事は、何かを話し合い、急を要するニーズに対してはその日出勤している職員で、アイデアを出しながら話し合い対応している。		

静岡県(グループホームくすのき 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の介護相談員が毎月来訪している。年に1回消防署の立会いで防災訓練を実施している。 市の広報や回覧板を見て参加できるものには参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回ホームドクターの往診を受けている。他医院への受診はご家族にお願いしているが、職員が対応する事もある。体調の変化が見られた時はすぐにドクターに連絡を取り、指示を仰いでいる。	かかりつけ医の受診は原則家族対応で、行けない場合は職員が連れて行く。情報は口頭で伝えるが、特に気になることは様式があり紙面で情報のやりとりをしている。訪問看護師と協力医の看護師が日常の体調をみる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師による訪問があり、ご利用者の様子や、体調管理の相談をしアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院のケースワーカーや、担当看護師等と情報交換を行い、スムーズに治療が進み早期に退院できる様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族へ終末期、重度化におけるホームの対応についての指針を説明している。救急搬送時の処置、対応についても、書面にてご家族の意向を確認している。	入居時に説明後、同意書にサインをもらっている。会社のマニュアルもあり、話し合いを行う手順もできている。終末期の対応を行う意向はあるが、職員が経験がないため不安がある。	職員研修は回を重ね、不安がないよう準備をすることが望まれる。また事業所独自のマニュアルの作成を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに添って対応している。社内研修やその後のホーム内研修により全職員が研修に参加している。 防災訓練時、救急隊員より心肺蘇生法やAEDの使い方の指導、訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会をホーム内に設け火災、地震、津波等の想定訓練を実施している。 火災、地震発生時は近隣の協力をお願いしている。 津波に対しては、ライフジャケットの着用訓練を行っている。	津波用にライフジャケットを購入し、装着訓練を取り入れた。訓練は年2回行われ、消防署も参加している。夜間想定訓練を行ったが、避難に時間がかかり、連絡にも課題があった。事業所を避難所に開放する発信を行っている。大家さんには、災害時の協力依頼を行い、理解を得ている。	訓練の際に近隣住民の協力が得られるよう取り組み、夜間想定訓練は何度も行い、職員に不安がないよう取り組むことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を尊重する事を基本に、個々にあった言葉かけや対応をしている。プライバシーに配慮した支援を行うよう努めている。	呼び名は本人の希望を聞き、声掛けは入居者を敬う気持ちを大切にしている。トイレ誘導の声掛けは早めに、周りに配慮して行っている。おむつ交換の時にはひざ掛けを使用し、本人が恥ずかしい思いをしないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望・思いを表す事が出来る雰囲気や関係作りに努めている。また、自己決定しやすいように3つぐらいに選択肢を絞り決めて頂いている。日常着もご自分で選べるよう収納を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人から要望があれば、その日の状態を見ながら希望に添える様努めている。外出や入浴、レク等声掛けや働きかけはするが、拒否が見られる時は強要せずご本人の意思を尊重するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は、洗顔、整容されている。その他必要に応じ、声掛けや介助にて行っている。定期的に移動美容室を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、野菜の皮むきや盛り付け、食器拭き、下膳等をお願いしている。買い物の時や広告、本などを見ながら食べたいものを伺い提供する様にしている。ホームの畑より収穫した物を提供し、食事の際に話題にしている。	新聞のチラシやテレビで見たものなど旬の物に配慮して献立を決めている。調理や配膳も入居者で出来る人が職員と一緒にしている。下膳は自然に多くの入居者が行っている。畑で取れた野菜や里芋等が食卓に並び、入居者が便秘予防に野菜を取れるよう心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に状態に合った食事形態にて提供している。食事量、水分量は記録に記入し状態の把握に努めている。特に水分量は、必要量が確保されるよう、温度や甘みに配慮し声掛けにて促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食、昼食後はお茶でうがいをして頂き、夕食後は、歯ブラシ、歯磨き粉を使い行って頂き、義歯使用者は洗浄剤に浸けていただく。ご自分で出来ない方は、介助で行っている。		

静岡県(グループホームくすのき 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間歩行不安定な方は見守りし、個々の排泄を記録しパターンを読み取り、声掛けにてトイレ誘導する事により、失敗を減らす努力をしている。	排泄表や申し送りで職員は情報を共有し、入居者のその日の体調を把握して、こまめな声かけを行っている。おむつ使用者で排便だけトイレで可能になったケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を把握し乳製品、寒天、野菜等を多く提供するようにしている。 毎日、レクや体操を行い体を動かす時間を設けている。 排便の間隔が空いた時には、温タオルで腹部マッサージを行い排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けし拒否される時は無理強いせずに行っているが、週に2回は入って頂ける様努めている。好きな入浴剤を選んで頂いたり、季節により菖蒲やゆずなどを入れて楽しみを持たせている。	現在は午後入浴しているが、夜の希望があればできるだけ希望にそう意向はある。同性介助も可能であるが希望はない。お風呂嫌いの入居者には無理強いをせず、タイミングを見計らって声掛けを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが崩れないよう支援しながら、ご本人の体調に合わせ傾眠が見られたり、休息が必要な方は、臥床時間を設けている。また、安眠できる様、室温や明るさ、寝具に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が確認し手渡して、飲み込みまで見守りしている。薬に変更があった時は、申し送りを行い薬ノートに記載し情報を共有している。また、様子観察し、気付いた事は個人記録に残し、必要に応じ医療機関との連携を取っている。状態に応じ服薬ゼリーを使用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝いの出来る方には無理の無い範囲で行って頂き、そうでない方もなるべ自分の事はして頂くよう声掛けしている。気分転換になるよう散歩、ドライブ、外食、買い物にお誘いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や職員の声掛けで散歩、ドライブ、買い物の支援をしている。また、外食に出たり地域の催物、園児との交流会、敬老会などにも参加している。 ご家族と外出、外食される方もいらっしゃる。	毎日の食材を買いに職員は入居者と出かけている。2か月に一度、外食支援をしている。地域の行事にできるだけ参加し、車椅子での段差のある場所への外出も支援している。お墓参りなどは家族の協力が得られている。	

静岡県(グループホームくすのき 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金としてホームで管理し、必要な物や好きな物を選んで頂き職員が精算している。ご家族了承のもと少額所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望するときはいつでも、ご家族へ電話できる様対応している。手紙は、ご本人に渡している。年賀状は、書ける方には声掛けしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節の飾付けをご利用者と作ったり、店で選んで頂いたりして変えている。毎日トイレ、居室、フロア等の清掃をご利用者と共に行っている。車椅子や歩行器の方が多いので、通路を広く取れるよう配慮している。	音は重ならないように、職員の声の大きさも注意している。リビングは南向きで窓が大きく明るい、入居者とこまめに掃除をするため清潔である。車椅子の方が自由に移動できるように家具を配置している。室温は温度計を参考に、心地よい温度に調節している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや居室で自由に過ごして頂いている。居室に居るのも個人の大切な時間として尊重している。食事の時の席の配置はその時の利用者間の関係により随時検討、変更している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置等は、ご本人とご家族で話して決めて頂き、職員もアドバイスしている。家庭の延長と捉え、馴染のある家具や、小物・家族との写真等置いて頂いている。仏壇を置いている方も居る。	入居者が自分の家にいるように、家族の協力のもと、馴染みの物を持ち込んでいる。昼間部屋で横になる時間が長い入居者にはベッドの向きや位置を、車椅子使用者には動きやすいよう、工夫して配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーで、手すりが設置されている。トイレや風呂場の入口には、分かり易いよう表示がしてある。また、居室は馴染の物がある事で、自室である事の理解へ繋がっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101145		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム くすのき 2F		
所在地	静岡県沼津市千本常盤町5-1		
自己評価作成日	平成25年9月5日	評価結果市町村受理日	平成25年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2271101145-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成25年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中でご利用者が自分らしく、安心して過ごせる様な支援を心掛けている。生活リハビリを念頭に置き、出来る事、出来ない事を見極め、声掛けや見守り、介助をしている。気持ちのよい挨拶・明るい笑顔を本年度の目標とし、職員、ご利用者、ご家族等くすのきに関わるみんなが笑顔に包まれるよう心掛けている。散歩や買い物、ドライブ等の日常的な外出に加え、外食や、外部のイベントへの参加、ホーム内の季節行事と、ご利用者に楽しんで頂ける様計画し実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「私たちは家庭の雰囲気の中で笑顔絶やせず、ともに笑い、皆で幸せを共有できる空間を創っていきます。」フロアの入口に掲示し、意識して実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーに買い物に行ったり、散歩に出た際、挨拶したり声を掛け合ったりしている。地域の方にボランティアをお願いしたり、敬老会や町内の活動に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の総会でグループホームとは・認知症とは・について説明させて頂いた。認知症サポーターとなり、包括支援センターの方と協力し活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ホームの状況報告や意見交換を行っている。呼びかけは毎回しているが、参加されるご家族が決まっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、介護相談員が毎月来訪し、ご利用者と話しをしている。生活保護の方も受入れ、市や包括支援センターと良好な関係が築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームで研修をしている。日中は玄関の施錠はしていない。また、きよしつには鍵が付いているが、施錠する事は無い。転倒の危険のある方でも、行動を制限せず付き添ったり、歩行器等を使い自由に動けるよう配慮している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時全身の観察を行っている。ヒヤリハットや事故報告書、申し送りノート等を活用し、ほうこく、情報の共有を行い、虐待の見過ごしや、防止に努めている。		

静岡県(グループホームくすのき 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で取り上げている。必要と思われる案件に対し、関係者と相談しているが、活用まではいたっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書、契約書を元に説明を行い、不安な事や疑問点等を尋ね理解、納得頂いている。また、入居後も質問に対し随時説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時や、ケアプラン説明時に伺っている。また、毎月の近況報告にて意見、相談がある方は声掛けして頂くようお願いしている。 玄関に意見箱を設置し、直接本社に意見が届くシステムも取っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のユニット会議や、全体会議でも話し合っている。また、年2回の個人面談を行い意見、提案を聞く機会をもうけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作成する際は、事前に休みの希望を聞き希望休が取れるよう調整している。 職員同士で協力し、時間内に仕事が終わるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者面接が年1・2回行なわれている。 社内研修を管理者が講師となり、年次計画で行なっている。 社内交流研修も随時行っている。 資格取得のための助成金制度がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沼津市のグループホーム連絡協議会に参加しネットワークを形成し、情報交換し、議題について話し合いも行っている。その他、ケアマネ会議等市や、包括支援センター、関係機関の主催する会合には積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時、ご本人やご家族から聞き取りをしている。また、入居後もご本人と接す中で要望に耳を傾けながら、理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時よりご家族の意見やニーズを伺い、意思疎通を図り関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との話し合いの中から、必要な支援を見極め、出来る限り意に添うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の行える事はご自身で行って頂ける様声掛け誘導し、必要時は介助している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時、日常の生活の様子をお話し、毎月1回の近況報告でもお伝えし、情報を共有し関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の方々が気軽に面会できる様配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性や雰囲気作りに配慮し、仲の良いご利用者同士を近い席にしている。また、孤立しがちな方には職員が話し掛けるよう心掛けています。		

静岡県(グループホームくすのき 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時や、その後も移転先や、ご家族から情報を求められたり、相談されたときは随時対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係を構築しながら、話しやすい雰囲気を作り、話しをしっかりと伺うようにしている。また、明確な意向が伺えない方は、表情や行動から読み取ったり、ご家族と話し合いながら本人本意に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント表にてご本人の状況を把握し、入居後ご本人や、ご家族との話しより、情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の心身状態や言動、行動を注意深く観察する様努めている。また、ご本人が行える事を生活の中で見つけられる様努力している。申し送りでも個別記録の情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回カンファレンスを開き個々の現状課題等を話し合う機会を持っている。モニタリングを3ヶ月ごとに実施し、意見交換を行い介護計画に反映している。ケアプランの見直し時は、アセスメントを取り直し現状の把握に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づき等その都度ケース記録に残し、職員間で情報を共有している。それを元に介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対し、柔軟な対応ができる様職員同士話し合い、アイデアを出し合っている。		

静岡県(グループホームくすのき 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の介護相談員が毎月来訪している。年に1回消防署立会いでの防災訓練を実施している。 市の広報や回覧板から情報を得て、千本プラザ等のイベントに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回ホームドクターの往診を受けている。他医院が雇い付けの場合、受診はご家族にお願いしているが、職員が対応したり、同行する事もある。急な体調不良等のときは、ドクターへ連絡し指示を仰いでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師が来訪している。ご利用者の気になる事や、様子を伝え体調管理や、処置のアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院のケースワーカーや、担当看護師と情報交換、相談をし早期に退院できる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族へ終末期、重度化におけるホームの対応についての指針を説明している。 救急搬送時の処置、対応についても書面にて、ご家族の意向を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに添って対応している。社内研修やその後のホーム内研修により全職員が研修に参加している。 防災訓練時、救急隊員より心肺蘇生法や、AEDの使い方の指導、訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会をホーム内に設け火災、地震、津波等の想定訓練を実施している。 火災、地震発生時は近隣の協力をお願いしている。 津波に対しては、ライフジャケットの着用訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人その人に合った声掛け、対応を行っている。 プライバシーに配慮し、支援しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、コミュニケーションをとりご利用者の思いや、要望を聞くようにしている。 決め付けた声掛けや、対応をしないよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、個々の希望に添える様また、その方のペースに合わせのんびり、楽しくホームでの生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容時、職員が気を配り行っている。 ご自分で出来る方は、様子を見ながら必要に応じ声掛けしている。 2ヶ月に1回移動美容室が来訪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の補助や、盛り付け等出来る方にはお願いし、手伝って頂いている。テーブル拭きや、下膳等負担になら無いよう声掛けし、なるべく行なっていただいている。 2ヶ月に1度の外食支援も行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を心がけ、個々に合わせた食事量や形態で提供している。水分摂取量は毎日記録し、摂取の少ない方にはゼリーや、甘い飲み物に変える等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ずうがいをして頂き、起床時と就寝時は歯磨きを行っている。ご自分で出来ない方は、介助にて行っている。また、就寝中は義歯洗浄剤に浸けている。		

静岡県(グループホームくすのき 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けにてトイレ誘導する事により、失敗を減らすよう努めている。オムツ使用の方も日中はトイレに座っていただき、排便を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を記入し、申し送りを行い情報の共有をしている。起床時に冷たい牛乳を提供している方も居る。朝食には必ずヨーグルトを提供し、おやつや、デザートに寒天ゼリーの提供も試みている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自立で入浴できる方は、午前、午後で、希望に添って入浴して頂いている。 ご希望により温度調節し、入浴剤も、選んで頂き楽しんでいただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠が見られた時は、声掛けにて入床して頂くが、そうでなければ個々のペースで、自由にして頂いている。 寝具は清潔に保ち、布団干しも行き気持ちよく休めるよう、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が手渡し服薬を確認している。飲見込み良くない方は、粉碎し水に溶かしスプーンで口に入れる等工夫している。薬の追加、変更があった場合は、申し送りノートに記入し、口頭でも申し送りし、間違えの無い様徹底している。また、様子観察し、気になる事はドクターやナースに報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や、ドライブ、外気欲等にお誘いし、気分転換して頂いている。レクリエーションに参加して頂き歌や体操、言葉遊びで、楽しんで頂いている。洗濯物畳みや、居室の掃除等決まった日課、役割が持てている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の急な希望にそう事は難しいが、出来るだけ希望に添える様努力している。 地域のイベントには、積極的に参加している。1対1で本人の希望の物を食べるに2ヶ月に1回出かけている。		

静岡県(グループホームくすのき 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金としてホームで管理しているが、ご自分で管理できる方は、ご家族了承の元自己管理し、好きな物や、化粧品等購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で電話を掛けられる方は申し出によりいつでも対応している。また、掛かってきた電話も取り次いでいる。届いた手紙はご本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにフロアーの飾付けを換えたり、散歩時に花を摘んできて飾ったりして、季節を感じられるような工夫をしている。 毎日、居室やフロアー、トイレ等の掃除をご利用者で行い、清潔に気持ちよく生活できる様に気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを置き、テレビをゆっくり観て頂ける空間を設けている。 気の合うご利用者を近くの席にする等、その時の関係により随時検討し、変更している。 皆さん、フロアーや居室で、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、出来るだけご本人の馴染の物を持って来ていただいている。家具等の配置は、ご本人とご家族で決め職員も、アドバイスしている。 洗濯物等日々の片付けは、職員と一緒に思い整理、整頓を心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーで、手すりが設置されている。トイレや風呂場には分かり易いよう表示がされている。通路には余分な物を置かず、安全に生活できる様にしている。		